

第5回

なんでも感謝祭



だがしや楽校 & かえっこバザール♪

日時：2011年10月16日（日）10:30～14:30

場所：山形県庄内町・狩川公民館

《はじめに》

山形県庄内町（旧立川町）での“だがしや楽校”については、初めてのレポートになりますので、はじめに、旧立川町を中心に庄内町について、簡単にご紹介します。

横顔の形をしていると言われる山形県の内、日本海に面している地域を庄内地方と言います。広大な平野が広がる庄内地方は、米の収穫量では、山形県全体の4割近くを占めるという稲作地帯です。ただ、冬になりますと、日本海からの強い季節風により、庄内特有の地吹雪に見舞われることが時々あります。

その庄内地方のほぼ中央から月山にかけて、細長く伸びた形をしているのが、庄内町です。

しかし、庄内町となったのは、2005年です。庄内町より、合併前の余目町・立川町という名前の方が、馴染みがある感じです。

旧余目町は、庄内平野のほぼ中央に位置していました。町の全域が平野部です。旧立川町との合併当時の人口は約18,000人。余目駅周辺には結構大きな市街地が形成されています。その余目駅は、羽越本線と陸羽西線が接続しており、交通の要所になっています。

一方、旧立川町は、旧余目町の南東側に位置し、さらに南東へ細長く伸び、月山にまで達しています。それでも、中心地としては、狩川・清川・立谷沢を挙げることができます。

旧余目町との合併当時の人口は約6,500人でした。

新庄市方面から国道47号線で庄内地方に入りますと、旧立川町は庄内地方の玄関でした。最上川沿いに庄内地方に向かい、山間の景色から、やがて前方に平野が広がり始めます。

これから平野部が広がろうという位置に清川地区があります。月山付近から流れてきた立谷沢川が最上川と合流するのが清川地区です。清川は、江戸時代には、最上川舟運の中継地として栄えました。公民館はありますが、小学校は統合によって廃校となり、校舎だけが残っています。

清川を過ぎて、平野が広がりつつあるところに狩川地区があります。でも、まだ山が近くに見

えますので、庄内地方の玄関には変わりありません。逆に見ますと、広大な庄内平野が、狩川地区に来ますと、最上川を中心に狭まってくる感じになります。このため、日本海からの強い風が集約されます。旧立川町は、風の強い地域としても有名です。

そのため、旧立川町で最も有名・・・と言うより、目立つのは風車村です。旧立川町では、町全体で風力発電を推進していました。風車村は、狩川駅前に広がる狩川地区の市街地の北側に位置しています。

狩川地区は旧立川町の中心部にあたります。旧立川町役場もここにありました。その役場も、合併により、庄内町役場立川支所となりました。現在の立川支所は、狩川の市街地の西側にあります。

その庄内町役場立川支所周辺にて毎年10月半ばに開催されているのが“たちかわ秋まつり”です。「たちかわの魅力が味わえる秋の大収穫産業まつり」という“たちかわ秋まつり”は、合併前から続いているお祭りで、町の観光協会や商工会が中心となり、実行委員会を組織して開催しています。

今年も、そば打ち実演販売、町内商工業者のびっくり市、お楽しみ福引、立川地区の特産品販売などが行われました。

この“たちかわ秋まつり”に合わせて、狩川公民館にて、2007年より開催しているのが“なんでも感謝祭”です。こちらは、狩川地区や部落の公民館館長、それから自治会長などで構成する“なんでも感謝祭実行委員会”が主催します。すなわち、“なんでも感謝祭”は地域住民が主体となって開催しているお祭りと言えます。この“なんでも感謝祭”開催を支援したり、コーディネートしているのが、庄内町社会教育課管轄の狩川公民館です。

“感謝”をキーワードに、これまで4回開催してきた“なんでも感謝祭”ですが、狩川公民館スタッフで庄内町社会教育課のA sさんは、「もっと何かあった方が良いかな・・・」と思うようになりました。

これまでの“なんでも感謝祭”は、売店（屋台）があって、お酒飲んで、カラオケやって終わっていたというお祭りで、特に子どもたちが楽しむことができるモノがなかったのです。それで「お祭りって、地域のみんなが楽しむものであり、これではお祭りではないだろう」とA sさんは思ったのです。

そんな時、今年（2011年）6月、地区にある“地域づくり会議”という団体で、だがしや楽校だがしや倶楽部の阿部等さん（NPO法人公益のふるさと創り鶴岡）を講師として招きました。阿部さんは“だがしや楽校”について、映像を見せながら講演しました。

講演を聴いたA sさんは、「これはおもしろい」と思い、「ここでもやってみよう」と決心したのです。

A sさんは「半分は自分の思い入れだけで“だがしや楽校”をやることにしたようなものですよ」と言いますが、そうだとすると、実際の開催に結び付けているわけですので、とても素晴らしいことです。

A sさんとはしばらくお話しましたが、思い入れだけでなく、おもしろさも兼ね備えた方で、まさに『“だがしや楽校”的人間』と感じました。

しかも、「半分は自分の思い入れだけ」と言いながら、開催に向けては、中学生を中心に、多く

の人を巻き込んでいるのです。「すごい」のひと言です。

開催に向けて、中学生には何度か集まってもらい、どんな内容にするか、話し合ってもらいました。

その時の様子をA sさんは「中学校の子どもたちを集めてやっていく内に、子どもたちはいろいろ発想が出てくるんですね。それで『これは良い』と思い、あとは中学生たちに全部まかせました」と話されました。それで、「遊び内容は、中学生が集まった時に、何をしようかと話し合い中学生たちから意見を出してもらいながら決めました」と経緯を語ってくださいました。

そうです。もうこの段階から“だがしや楽校”が始まっていたのです。中学生たちは、自分の思いを語りました。いろいろな発想を出しました。これって、まさに“だがしや楽校”が言う『自分みせ』です。

今年が初めての取り組みとは思えない凄さです。

これもきっと、A sさんの熱意が中学生たちに伝わったのではないかと思います。物事が動くというのは、理論や理屈ではありません。やっぱり「人」なんです。

こうして遊びの内容が決まりました。遊びに必要なものの多くはA sさんが準備しました。

それでも、ネイチャーアートで使うマツボックリ・木の実・葉っぱなどは子どもたちが拾い集めました。

また、あるスタッフの方（JAにお勤め男性の方で、部落の公民館館長）は「ボランティアスタッフである中学生たちは、“だがしや楽校”で遊びに来た人たちに教えることになるので、事前に何回か集まって、やり方・作り方の練習をしていました」と教えてくださいました。

ここまで来ますと、中学生たちに脱帽です。

さて、A sさんは「本当なら、同じ日に開催する“たちかわ秋まつり”と“なんでも感謝祭”がいっしょになり、共催という形で開催できれば良いのですが・・・」と言います。それで、なんとか2つのお祭りをつなげたい、と動いたA sさんは、今回、“だがしや楽校”プラス、同じく阿部等さんから教えてもらった“かえっこバザール”を開くことにします。

そして、“たちかわ秋まつり”に出店した数店舗に“かえっこバザール”の協賛をお願いしました。つまり、協賛してくださった“たちかわ秋まつり”のお店でも子どもたちが仕事・手伝いをしますと、かえっこポイントをもらえる、というシステムを作ることができたのです。

これで、一部ではありますが、“たちかわ秋まつり”と“なんでも感謝祭”がつながることになりました。

鶴岡の“だがしや楽校”ではお馴染みになった“かえっこバザール”とは、お家で使わなくなったおもちゃやぬいぐるみなどを持ってきますと、品物によって点数を付け、かえっこポイントにします。かえっこポイントをためて、そのポイントで別の欲しいおもしろやをもらうことができるという仕組みです。

“なんでも感謝祭”の“かえっこバザール”では、ほかに“だがしや楽校”の各おみせで遊んだり、先にご紹介した“たちかわ秋まつり”のお店や“なんでも感謝祭”でお仕事・お手伝いしたりしますと、かえっこポイントがもらえることにしました。

このように、狩川地区では、今回初めての“だがしや楽校”や“かえっこバザール”にもかかわらず、阿部等さんからの講演だけで、あとは自分たちで企画し、準備し、開催にこぎ着けたのです。

これは非常に高く評価したいと思います。

「なんでもあり」「やり方自由」の“だがしや楽校”です。しかし、そうは言っても、「実際の開き方を見せてください」と問われるのが普通です。それが当たり前だと思っています。でも、実際のやり方を示しますと、“だがしや楽校”に対する固定概念を持たせてしまう可能性もあり、場合によっては、慎重に対応することがあります。

全国的には、自分たちの力で、自分たちの“だがしや楽校”を築いてきたところがあります。西東京市や横浜市都筑区が、その例であり、いずれも私（山口）が高く評価している“だがしや楽校”です。

これからご紹介する“なんでも感謝祭”の“だがしや楽校”は、それに匹敵する“だがしや楽校”なのです。

ちなみに、阿部等さんから私への報告では、当初は「開くにあたっての具体的なレクチャー依頼があるかもしれないので、その時は山口さん、対応お願いします」ということでしたが、その後「狩川公民館から『自分たちで出来ます』という連絡が入りましたので、当日の取材・フォローだけお願いします」との報告がありました。

次に“なんでも感謝祭”で“だがしや楽校”を開くにあたって、実行委員会では（実際にはAsさんのアイデアであると思われます）、2種類のチラシを作りました。

1種類は、全戸配布用です。このチラシでは、“第5回なんでも感謝祭”と題して、昨年までの屋台コーナーや振る舞い餅のほかに、ファミリーイベントとして“だがしや楽校”などを紹介しています。しかも、ファミリーイベントがトップに掲載されています。

なお、このチラシには“なんでも感謝祭”の趣旨である「自然に感謝、収穫に感謝、先人に感謝、地域の人に感謝、私たちを取り囲むいろいろなものに感謝の心を持ちながら楽しい一日を過ごしましょう」のメッセージが記載されています。

さて、もう1種類のチラシは、中学生までの子ども用です。このチラシのタイトルは“第5回なんでも感謝祭 だがしや楽校&かえっこバザール”です。チラシの大半を“だがしや楽校”と“かえっこバザール”で占めています。

この2つのチラシを見ますと、“なんでも感謝祭”というイベントではありますが、“だがしや楽校”はメインのイベントとして位置付けられていると見ることができました。

これも、実行委員会（Asさん）の英断でしょうか。本当にすごいことです。

子ども用のチラシは、小中学校を通して、すべての子どもたちに配られました。また、事前にお家で使わなくなったおもちゃやぬいぐるみの提供も募集しました。

こうした準備・プロセスを経て、いよいよ第5回“なんでも感謝祭 だがしや楽校&かえっこバザール”当日を迎えたのでした。

2011年10月16日（日曜日）庄内町の天気：未明～朝雨 日中は曇り時々晴れ 午前中一時雨

【なんでも感謝祭 だがしや楽校&かえっこバザール】

この日は、このあとご紹介する中村さんの紙芝居の機材・道具を車に積んで、鶴岡より狩川公民館に向かいました。着いたのは午前9時20分。スタートまで1時間以上前です。

早速、車を狩川公民館の玄関前に止め、中村さんといっしょに、紙芝居の機材・道具を“だがしや楽校”の会場である公民館の大ホールに搬入しました。そして、大ホールを目にした私は、ビックリしました。



なぜなら、会場が準備万端、整っていたからです。あまりの完璧さに、違和感をおぼえるほどでした。

だいたい“だがしや楽校”なんて言いますと、開始直前までに、自分たちが出来るもの・得意とするものを適当に持ち寄って、なんとなく始めることが多いです。そこまでユルユルでなく、事前に準備していたとしても、開始直前までは、なんだかんだしていることが多いです。

私もそういう“だがしや楽校”を数多く見ており、“だがしや楽校”というのは良い意味でのいい加減さがあるのも特徴であると考えていますので、ここまでキッチリ準備されていると、逆に落ち着かない感じがするのです。

でも、これは、いかにこの日まで、中学生を中心に準備してきたかの証であります。この報告でも、この日までのプロセス・経緯をご紹介してきましたが、その結果がこのような形になって表れたわけです。

やがて、中学生たちやスタッフと思われるスタッフの人たちが増えてきて、少しずつ雰囲気が出てきました。野外では飲食関係の屋台の準備が進んでいます。

“なんでも感謝祭”の開会が近づいてきました・・・と思っていたら、突然強い雨に見舞われます。この日の天気は不安定で、鶴岡でも朝まで雨が降り続いていましたので、あいにくの空模様と思われたのですが、その後は雨もやみ、「なんとかかなりそう」と思っていた矢先の雨でした。

上空は暗い雲に覆われています。このまま雨が降り続きますと、カラオケ・飲食（ビアガーデンのような感じです）、それにステージイベントが屋内となります。しかし、幸いに雨は短時間でやみ、そのまま野外で行うことになりました。

時刻は午前10時をすぎました。まだ開会には少し時間がありますが、早くも“かえっこバザール”におもちゃなどを持ち込む子どもたちの姿がたくさんありました。

というわけで、先に“かえっこバザール（受付）”の様子をご紹介しましょう。

▼かえっこバザール（受付）



子どもたちが持ち込んだおもちゃなどを、中学生のお兄さん・お姉さんが確認して“かえっこポイント”にしています。早くも大忙しの中学生たちです。



これだけ早くからおもちゃなどの持ち込みがあったことから、事前の告知が徹底されていたことをうかがい知ることができます。

やがて、開会の午前10時30分になりました。

しかし、特にセレモニーや合図もなく、いつの間にか始まっていた感じです。“かえっこバザール（受付）”だけでなく、ほかの遊びやコーナーも、気が付いたら、午前10時30分前から遊びが始まっていた感じです。

こういうユルユル感に、“だがしや楽校”らしさが出てきました。私がお会場に到着した時のキッチリ感が薄れていきました。良いですね～・・・

ここで“たちかわ秋まつり”を少し覗いてみることにしましょう。

狩川公民館が庄内町役場立川支所の南隣りに位置しているのに対し、“たちかわ秋まつり”の会場である庄内町体育センターは庄内町役場立川支所の東隣りに位置しています。歩いて、庄内町体育センターに行ってみます。

太鼓の音が聞こえます。これは“たちかわ秋まつり”のオープニングセレモニーとして“立谷沢和太鼓クラブ”の子どもたちが演奏している音です。この“立谷沢和太鼓クラブ”については後ほどご紹介します。



開会早々なのに、庄内町体育センター内は、この人出です。福引きにも長い列ができていました。出足は“たちかわ秋まつり”が早い感じです。しかし、にぎやかですが、“だがしや楽校”のような雰囲気とは違います。

狩川公民館に戻ります。なんとなく雰囲気が違います。



↑写真は、狩川公民館の玄関です。高校生たちが、東日本大震災の義援金を募っています。

玄関の左側に、なんでも感謝祭”抽選受付と飲食屋台のチケット売り場(写真右)があります。飲食屋台はこの左側に連なっていて、焼きそば・フランクフルト・玉こんにゃく・焼き鳥、それに生ビール・お酒・焼酎まで販売しています。

売っているもので、飲食コーナーがビアガーデンのような雰囲気であったことは想像していただけだと思います。飲食コーナーの一角には、カラオケ用のステージが設けられていました。これまでの“なんでも感謝祭”は、ここが中心だったことから、子どもたちや子どもたちのおとうさん・おかあさんの居場所が無かった、というわけです。



↑公民館玄関に出されたのは、水ヨーヨーのおみせです。次々に子どもたちがやってきました。周りの大人も夢中のように・・・。



↑玄関を入ると、わたあめコーナーです。食べたい人は、自分でわたあめを作ります。わたあめはどこへ行っても人気です。

“だがしや楽校”会場の大ホール入口は、わたあめの撮影場所付近です。大ホールも、だいぶにぎわってきました。

でも、その前に、野外の催しをご紹介します。

◆オープニングセレモニー・立谷沢和太鼓クラブ

“たちかわ秋まつり”のオープニングセレモニーで演奏していた立谷沢和太鼓クラブは、“なんでも感謝祭”のオープニングセレモニーでも演奏しました。実際の演奏は、午前11時30分からでしたが、これで“なんでも感謝祭”は、ますます盛り上がりました。



この日は、小学1年生から6年生までの15名で演奏しました。

演奏したのは、“風車”と“月山川風太鼓”の2曲。いずれもオリジナルで、立谷沢川の清流の水音と風車が回る情景をイメージして作曲したものだそうです。

このように、立谷沢和太鼓クラブでは、太鼓を演奏するだけでなく、創作にも力を入れています。ドラが使われているのも特徴です。

こう言うのはなんですが、とても小学1年生から6年生までの子どもたちによる演奏とは思えないハイレベルな演奏で、感動しました。

◆餅つき



“なんでも感謝祭”恒例の餅つきです。子どもたちも順番に餅をつきました。そして、つきたてのお餅が振る舞われました。私もお昼休みの時間にいただきました。やっぱり、つきたてのお餅は美味しい！

それでは、大ホールに入りましょう。

大ホールでは、中央に“だがしや楽校”の3つのおみせが設けられました。

ステージには“かえっこバザール”のおもちゃなどが並べられました。

また、周囲にも、いくつかのおみせが出されました。はじめに、周囲のおみせからご紹介しましょう。

◆お楽しみ抽選会（総合案内所）

“なんでも感謝祭”の抽選とは別に、中学生以下の子どもたち対象の“お楽しみ抽選会”が行われました。



ここは、子どもたち対象の総合案内所でもあり、この日の“なんでも感謝祭 だがしや楽校&かえっこバザール”が、いかに子どもたちを大切にしているかを、如実に表しています。

次々に子どもたちがやってきては、抽選しています。

◆お菓子と抹茶コーナー：立川小学校茶道クラブ



“だがしや楽校”脇でのお茶の雰囲気。なんとも言えない良い雰囲気です。“だがしや楽校”を盛り上げていただきました。



クラブ・メンバーの児童にインタビューしました。

茶道クラブは入学当時からあったそうで、長年にわたり続いているものと思われます。

クラブ員は15名ほど。活動は週1回、木曜日の6時間目です。

クラブに入った動機については「お茶の点て方とかお菓子の渡し方を体験するのが楽しいからです」という答えが返ってきました。

◆あてもの



1回100円のあてものコーナーです。一種の当てクジですが、景品は豪華です。立谷沢和太鼓クラブの子どもたちも挑戦です。



写真右は、1等が当たった瞬間です。

◆ゲームコーナー



ゲームと言っても、オセロや将棋で楽しみました。

それでは“だがしや楽校”の3つのおみせをご紹介します。

▼ペーパーアート・コーナー

紙を使ったリサイクルコーナーで、遊びは2つで、新聞バッグ作りとぬり絵です。

《新聞バッグ作り》



新聞紙によるエコバッグ作りです。午前10時30分の“だがしや楽校”が始まる前から作る風景が見られた遊びです。



新聞バッグは、意外に丈夫です。ただ、丈夫にするためには、きちんと作るようになります。そのためでしょうか、始めは作る風景が見られたものの、後半になると、新聞バッグ作りをするお子さんの姿はありませんでした。

ちょっと難しかったのでしょうか。それとも、作るのに少々時間がかかるためでしょうか。

新聞紙の記事を上手に活用する工夫があると、良かったかもしれません。出来上がったサンプルを見ますと、カラフルさがありません。今の新聞紙は、カラー刷りの面が結構あります。風景写真もよく掲載されています。サッカー好きな人のためには、サッカー記事を活用する工夫もできます。

《ぬり絵》



ぬり絵には、女の子さんだけでなく、男の子さん、それにおかあさんも参加しました。



すでに描かれている絵に色を塗りますが、好きな色を選べる楽しさがあるからでしょうか、多くの子どもたちが楽しんでいました。

▼アクアビーズ・コーナー



アクアビーズとは、表面に水溶性接着剤が塗られているビーズのことです。

いろいろな色のアクアビーズで絵を描いたり、形を作ったりします。それに水を吹きかけますとビーズ同士がくっ付いて、ひとつの作品ができます。アクセサリーにもなります。アイデア次第で、いろいろな遊びができます。



女の子さんに大人気のおみせでした。

私（山口）も初めて拝見したアクアビーズ。これも中学生たちの提案でしょうか。私も勉強になります。

ただし、アクアビーズは、ある玩具メーカーの商品名であり、“だがしや楽校”として相応しい遊びか・・・については、山形県内そして全国各地で、それぞれ“だがしや楽校”を開催する際には、よく検討していただき、納得の上で採用していただきたいと思います。

▼ネイチャーアート・コーナー

3つのおみせの中で私が最も注目したおみせです。

マツボックリ・ドングリ・木の実・落ち葉などを使ってアイデア作品をつくろう・・・という工作屋台です。



テーブルには、たくさんの、そしていろいろな種類の材料が並んでいました。中学生たちが拾い集めたそうですが、揃えるのに大変だったのではないのでしょうか。

それに、木の枝や輪切りにした木も準備されました。



自然の恵みを活かすことも、ひとつの“だがしや楽校”であり、これまでの経済第一主義の社会のあり方を見直すことにもつながります。



このような遊びは、山形県内の“だがしや楽校”では、山形大学農学部の“森の学校”、県民の森“遊学の森”の木エクラフトでも見られますが、いずれも大人気です。

この日の“なんでも感謝祭 だがしや楽校&かえっこバザール”でも大人気となり、写真のように、大勢の子どもたち、そして大人たちが楽しんでいました。

▼紙芝居

創作紙芝居劇団“だだちゃまめ”の中村恵二さんによる紙芝居です。鶴岡を中心にした山形県での“だがしや楽校”では、すっかりお馴染みになった中村さんの紙芝居。1週間前は“だがしや楽校全国寄り合い2011・子どもサミット”でも活躍していただきました。

さて、庄内町狩川地区の子どもたちの反応は？



いつものように、紙芝居が始まる前に、お菓子を買います。中学生のお兄ちゃんに、お手伝いしていただきました。



なぞなぞやクイズに積極的に答えようとする子どもたち。ほしいものがあるからでしょう、フライングするお子さんもいました。でも、フライングは、どこにでも見られる風景です。



ただ、創作の時には、やや反応は鈍く、発表でも恥ずかしがって、前には出ないで、見ている場所に立って、お話をしていました。

でも、写真のように、大勢の子どもたち、そしておとうさん・おかあさんたち、それに昔の紙芝居を体験していた人たちが、紙芝居の前に集まりました。



↑らくがきコーナー



↑おみせのお手伝いをする子どもたち

らくがきコーナーは、ぬり絵ができたペーパーアート・コーナーの脇にあったためでしょうか、らくがきに興じるお子さんは少なく、写真も1つだけです。

お手伝いをする子どもたちは“かえっこバザール”受付のお手伝いです。私のインタビューに笑顔で答えてくれました。2人は同じ小学校に通うお友だち同士です。

▼かえっこバザール



事前の告知が良く、たくさんのおもちゃなどが集まり、充実した品揃えになった“かえっこバザール”。写真のとおり、大勢の子どもたちが集まりました。

選んだおもちゃは、かえっこポイントと引き替えにもらいます。

▼かえっこバザール・オークション



オークションとは考えました。本家の鶴岡でもオークションまでの発想はありませんでした。

“かえっこバザール”に集まったおもちゃやゲームのオークションです。品揃えが充実していたこともあり、オークションにもたくさん子どもたちが集まりました。

進行はA sさん。ハンマーを叩くのは中学生です。



はじめはステージ下にいた子どもたちでしたが、オークションが白熱していく内に、いつの間にかステージに上がり、Asさんを取り囲んでいました。

子どもたちは、自分のかえっこポイントを見ながら、値（ポイント）を付けていきます。競争になり、緊迫した場面になることも・・・。



ついにハンマープライスとなり、入札したお子さんにおもちゃが渡されます。入札できず、悔しがるお子さんもいました。

子どもたちには、良い社会体験の場になりました。また、自分が持っているかえっこポイントを見ながら値（ポイント）を付けますので、算数の体験、交渉の体験にもあります。

こんな感じで大勢の子どもたちが集い、盛り上がった“だがしや楽校”だったことから、アツと言う間に、おしまいの午後2時30分になってしまいました。

《振り返り》

Asさんは、初めての試みで「どれくらい人が来てくれるか心配だった」と思っていたそうですが、実際には、お伝えしているように、たくさんのお子どもたちとその家族の人たちが来ていました。スタッフの方からは「普段見ることの少ない若いおとうさん・おかあさんの姿が見られました」という感想を聞くことができました。

拝見して感じたのは、これが第1回目とはとても思えないほどの充実ぶりです。これまで何度も開いているような“だがしや楽校”的ドッシリ感がありました。

何より準備が素晴らしかったです。

また、中学生たちの活躍ぶりも特筆しなければなりません。一生懸命になって子どもたちと接する姿は、とても印象的です。

小学生のOB・OGとして遊びに来る中学生の例はあっても、この日のように、ボランティアスタッフとして大勢の中学生がかかわっている“だがしや楽校”という例は、ほとんどありません。そういう意味でも、貴重な“だがしや楽校”でした。

ここでしか見られないアイデアも随所に見られました。その代表例はオークションでしたが、

それ以外にもアクアビーズがおみせになったり、オセロや将棋のゲームコーナーがあったりで、バラエティーに富んでいました。

“あてもの”も、ほかでは見られないアイデアです。鶴岡などでは、“だがしや楽校”のおみせで遊んでもらいますと、当てクジができるシステムです。でも、ここでは、“だがしや楽校”のおみせで遊びますと、かえっこポイントがもらえるシステムです。

“あてもの”は、単独でのおみせになっていました。

おもちゃなどの持ち込みだけでなく、“だがしや楽校”のおみせで遊んだり、お仕事・お手伝いをしますと、かえっこポイントがもらえるというシステムも、ここだけです。

このようにアイデアいっぱい、創意工夫いっぱいの“だがしや楽校&かえっこバザール”になっていました。

ただ、かえっこポイントに集中させているシステムでは、かえっこバザールでのおもちゃなどの品揃えを豊富にしなければならない・・・ということも考えられます。「・・・しなければならない」は“だがしや楽校”的ではありませんので、かえっこバザール・かえっこポイントのシステムについては、今後の継続を考えた場合、見直しする場面が出てくるかもしれません。

さて、Asさんは「今年第1回目をやって、来年につながれば・・・」とも語っていただきましたが、来年以降、少しずつになりましょうが、さらにより良い“なんでも感謝祭 だがしや楽校&かえっこバザール”にするための課題も感じましたので、ひとつだけ申し上げます。

この日の“だがしや楽校&かえっこバザール”では、地域の大人たちがスタッフとなり、子どもたちと触れ合っていました。また、立川小学校茶道クラブがおみせを出しましたが、ここでも地域の大人たちと子どもたちの触れ合いが見られました。

しかし、“なんでも感謝祭”として見渡しますと、子どもたちと触れ合っていたのは一部の大人たちでした。すなわち、子どもたちとその関係者は大ホールに、地域の大人の皆さんは野外の飲食コーナーに居て、そのつながりを感じるできませんでした。

今回は、“なんでも感謝祭”の中で“だがしや楽校&かえっこバザール”が出来たことだけでも画期的なことです。一方、地域の大人の皆さんが、狩川公民館に来てくださり、飲食コーナーで楽しみ、カラオケで歌ってくださるだけでも、素晴らしいことです。

そういう意味では、それ以上のことを無理して望む必要はないかもしれませんが、世代を越えた場でもある“だがしや楽校”を考えますと、そして何より、狩川という地域のことを考えますと、子どもたちと地域の大人たちが、なんとかもっと触れ合うことができないものか、と考えてしまいます。

それで、ひとつの提案としては、“だがしや楽校”に、地域の大人たちによるおみせを1つでも良いので、出すようにしてはいかがでしょうか。

例えば、この時期（秋）ですと、よく見られるのが“しめ縄作り”のおみせです。ほかにも、ちょっとした得意なこと・特技を持っている大人やお年寄りの人は、どこかにいるはずで、それは何でも良いんです。知らないだけかもしれません。「こんなものでは、おみせにならない」と思っているだけかもしれません。

“たちかわ秋まつり”とのつながりも大事ですが、子どもたちと地域の大人たちとのつながりも大切です。そのキーワードが「感謝」です。

第1回目から、素晴らしい“だがしや楽校”となりました。だからこそ、1回だけで終わるのは、もったいないです。

子どもも大人も、若い人もお年寄りの人も、みんながつながってこそ、はじめて本当の地域づくりです。今回の“なんでも感謝祭 だがしや楽校&かえっこバザール”をきっかけに、この地域がさらに素晴らしい地域になっていくことを願わずにはられません。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター